

山形市文化活動と学びのデータベース構築業務

審査要領

令和8年6月

山形市教育委員会社会教育青少年課

山形市文化活動と学びのデータベース構築業務審査要領

1 選考方法

選考は、「要求水準書」対応表、経費見積書、運用・保守費用試算書及び企画提案書の審査を行い、合計得点が最も高い者を優先交渉権者として決定する。

2 評価点数（配点：4,000点）

評価項目	評価者	評価方法	配分点
「要求水準書」対応表による評価	事務局	一定の計算式による評価	800点
提案価格等による評価	事務局	一定の計算式による評価	800点
企画提案書による評価	審査員	各審査委員による評価	2,400点
—	—	—	合計 4,000点

※ 審査員とは、山形市文化活動と学びのデータベース構築運用事業審査会議審査員（以下「審査員」という。）を言う。

3 評価方法

(1) 「要求水準書」対応表による評価（配点：800点）

提出された「要求水準書」対応表（様式9号）に基づき事務局が評価する。

【得点基準】

回答	回答基準	評価点
◎	見積金額の範囲内で実現可能であり、具体的な実現方法を提案できる。	5点
○	条件付又は代替案により実現可能である。	3点
△	実現困難である。	1点

【計算式】

要求水準書の回答欄（200点満点※）×係数（4）＝評価点（配点：800点）

※ 得点項目数 40 × 評価点[1・3・5] = 200点満点

(2) 提案価格等による評価（配点：800点）

提出された「経費見積書（様式10号）」及び「運用・保守費用試算書（様式11号）」の金額に基づき、次表のとおり価格評価点を付与する。

なお、経費見積書についてはシステム構築費用及び運用・保守費用（令和9年3月1日から令和9年3月31日まで）を、運用・保守費用試算書については令和9年4月1日から令和14年3月31日までの5年間の運用・保守費用の試算額を評価対象とする。

	評価対象	取扱い	価格評価点
①	経費見積書	提案上限額 4,158,000円※1	400点
②	運用・保守費用試算書※2	参考見積	400点
—	—	—	合計 800点

※1 経費見積書の金額が提案上限額を超える場合は失格とする。

※2 試算書には、期間限定の割引価格、初年度のみの特別価格及びその他通常の継続運

用を前提としない価格設定条件を前提とした金額は記載しないこと。

価格評価点は、次のとおり算定した点数とする。なお、得点は小数点以下を切り捨てし、整数とする。

【計算式】

$$\textcircled{1} \text{経費見積書における価格評価点(400点満点)} = \frac{\text{最低見積価格} \times}{\text{見積価格}} \times 400$$

$$\textcircled{2} \text{運用・保守費用試算書における価格評価点(400点満点)} = \frac{\text{最低見積価格} \times}{\text{見積価格}} \times 400$$

※ 最低見積価格・・・事業者が提案した価格の中で最も低い価格

$$\textcircled{1} (400 \text{点満点}) + \textcircled{2} (400 \text{点満点}) = \text{価格評価点 (800点満点)}$$

(3) 企画提案書による評価（配点：2,400点）

提案者によるプレゼンテーションの内容を踏まえ、別紙「企画提案書評価表」に基づき評価を行う。審査委員は4名とし、各委員の持点は600点、総配点は2,400点とする。

【計算式】

$$\text{係数}[1\sim6] \times \text{評価点}[1\cdot 2\cdot 3\cdot 4\cdot 5] \times 28 \text{項目} = \text{各委員の持点 (600点満点)}$$

山形市文化活動と学びのデータベース構築業務にかかる公募型プロポーザル 企画提案評価表

提案者名	審査員名	得点合計： /600
------	------	--

● 5・・・特に優れている
● 4・・・優れている
● 3・・・標準
● 2・・・やや劣っている
● 1・・・劣っている

項	評価項目		評価観点	点数		得点
				係数	評価点	
1-1	業務全体	課題認識度・業務理解度	本市の課題及び事業目的を適切に理解しているか	4	1・2・3・4・5	
1-2		基本コンセプト・アピールポイント	コンセプトが明確に示されており、様々な利用者や利用目的に対応できる提案となっているか	5	1・2・3・4・5	
2-1	システム	情報集約・データベース設計	分散するイベント・講座・団体情報を効果的に集約・分類・検索できる構造となっているか	6	1・2・3・4・5	
2-2			コンテンツ情報の更新がしやすく、運用開始後の変更にも対応しやすい設計となっているか	6	1・2・3・4・5	
2-3			初回利用でも迷わずにイベント・講座情報を投稿できる設計になっているか	5	1・2・3・4・5	
2-4		デザイン・操作性	利用者が必要な情報に容易に到達できるよう、画面構成及び情報整理が適切であり、分かりやすい導線設計となっているか	3	1・2・3・4・5	
2-5			直感的に操作できる設計となっており、文字サイズ、配色、レイアウト等が視認性に配慮されたものとなっているか	3	1・2・3・4・5	
2-6			幅広い世代にとって親しみやすく、統一感のあるデザインとなっているか。また、継続的な利用につながるよう、分かりやすさや使いやすさに配慮されているか	3	1・2・3・4・5	
2-7			職員の業務効率性・操作性	職員による情報登録・更新・管理が容易であり、業務負担軽減や業務効率化に配慮された設計となっているか	6	1・2・3・4・5
2-8		アクセス分析	アクセス分析や参加傾向分析等、市民ニーズの把握及び施策改善につながる提案があるか	4	1・2・3・4・5	
3-1	コンテンツ	情報編集・見せ方	「初心者向け特集」、「子育て世代向け」、「今月のおすすめ」、「仕事帰りに参加できる」など、市民の興味・関心を喚起し、参加行動につながる情報編集やコンテンツ企画が提案されているか	5	1・2・3・4・5	
3-2		回遊性・継続利用	「関連イベント表示」、「おすすめ表示」、「特集記事」など、継続的な利用やサイト内回遊を促進するコンテンツ構成となっているか	5	1・2・3・4・5	
4-1	セキュリティ対策	情報セキュリティ対策	不正アクセス、情報漏洩、改ざん等への対策が適切に講じられているか	3	1・2・3・4・5	
4-2		個人情報保護・管理体制	個人情報の適切な管理体制及び運用ルールが整備されているか	3	1・2・3・4・5	
4-3		事故発生時の対応	障害や情報セキュリティ事故発生時の対応体制、復旧方法、連絡体制等が整備されているか	3	1・2・3・4・5	
5-1	実施体制	作業計画	運用開始日までに全作業を完了できるよう余裕を持ったスケジュールであり、具体的かつ妥当性のあるものであるか	4	1・2・3・4・5	
5-2		業務体制	業務責任者及び担当者の配置、役割分担、人数構成等が適切であり、本業務を安定的かつ効果的に遂行できる体制となっているか	4	1・2・3・4・5	
5-3		即応性及び支援体制	本市との円滑な連絡及び迅速な対応が期待でき且つ支援体制も充実しているか	4	1・2・3・4・5	
5-4		地域精通度	山形市内に本店又は営業所があるかを評価する	1	1・2・3・4・5	
6-1	保守運用	保守・障害対応体制	システムの安定稼働を維持するための保守体制が整備されているか	3	1・2・3・4・5	
6-2		平常時の問い合わせにおける対応とその体制	公開後の保守運用体制が明確であり、障害対応、問い合わせ対応、更新支援等について適切な提案となっているか	3	1・2・3・4・5	
7-1	審査において市が特に重視する事項	参加につながる仕組みづくり	単なる情報掲載ではなく、市民が「参加してみたい」と感じ、実際の行動につながる導線設計や工夫が具体的に提案されているか	6	1・2・3・4・5	
7-2		若年層・女性層への情報発信の視点	若年層、特に女性の参加促進や地域定着につながるUI/UX、情報発信、参加導線等について、具体的な提案がなされているかを重視する。	6	1・2・3・4・5	
7-3		生涯学習に関する情報発信の視点	市民の学び(生涯学習)について、娯楽性の高いイベントに限らず、講座・教室・地域活動等を含む広範な学習機会として捉え、情報資源として適切に発信する視点があるか	6	1・2・3・4・5	
7-4		地域文化・地域資源の発信の視点	地域文化を行政主催イベントに限定せず、町内会活動や小規模な文化活動等を含めた多様な地域活動として捉え、適切に可視化・発信する視点があるか	6	1・2・3・4・5	
7-5		継続運用性・発展性	構築後も継続的な情報更新やデータ蓄積が可能であり、市民・団体・行政が持続的に活用できる運用設計となっているか	5	1・2・3・4・5	
8-1	追加提案	利用者の利便性向上	要求機能以外の利用者利便性向上への工夫・提案	4	1・2・3・4・5	
8-2		職員の業務効率向上	要求機能以外の職員業務量軽減への工夫・提案	4	1・2・3・4・5	